

日野伊久子  
(昭和女大)

【目的】 「アイヌ民族服飾の復元・保存および文化に関する研究」を目的として、衣服形態・寸法・縫製について継続的に実測調査を行ってきた。本研究では北海道開拓記念館所蔵資料の中から山丹服・蝦夷錦13点について衣服形態を分類し考察結果を報告する。

【方法】 調査資料は、補服1、龍紋服5、蟒袍5、襖子2の計13点である。各資料の前・後身頃、スリットの有無、前身頃の打ち合わせ形態及び袖、襟の各部位の構成特徴を記録した上で衣服形態を分類し考察する。

【結果】 衣服の構成は、身頃、袖、襟の各部分から成り、直線及び曲線裁ちでほぼ平面的に構成されている。身丈は、対丈の衣服10点、短衣3点である。仕立て方は、衿仕立て10点、単仕立て3点である。身頃にはスリットあきがあるが、スリットのない衣服(3点)もある。服種によって前身頃の形態は左右対称と左右不対称の2種類に分れる。袖の形態は、筒袖が多く8点、馬蹄袖3点、広袖2点である。襟は、襟無しと襟付きとがある。身頃の打ち合わせの違いによって右衿で襟無しの場合は「曲襟」前中心あきで襟無しは「丸襟」の呼称を使用した。襟付きには平襟(きもの襟風)と立襟(詰襟)があり、また右衿で後襟のついたハイネック風の資料もある。以上山丹服・蝦夷錦13点の形態調査から構成特徴上5グループに分類しまとめた。①筒袖で前明き、スリットあきがある対丈の衣服、②筒袖で右衿、平襟の対丈の衣服、③筒袖で曲襟の対丈の衣服、④馬蹄袖で曲襟のスリットあきのある対丈の衣服、⑤広袖で立衿のスリットあきのある短衣である。